

沿線 DMO 協議会 議事録

1. 開催日時

2026 年 8 月 31 日（月） 15:00～16:00

2. 開催場所

Web 会議

3. 出席者

団体名：奥多摩町観光産業課、一般社団法人奥多摩観光協会、一般財団法人おくたま地域振興財団、JR 東日本八王子事業本部、沿線まると株式会社、株式会社さとゆめ

4. 議題

「2025 年度事業報告及び 2026 年度事業計画・実行計画について」

【報告事項】

沿線まると株式会社より、沿線 DMO（観光地域づくり法人）としての 2025 年度事業実績報告及び 2026 年度事業計画・実行計画について説明が行われた。これに対し、出席者から質疑応答および意見交換が行われた。なお、本計画の内容については本協議会に先立ち、各構成員に個別に説明を行い、同意を得た上で、本日改めて構成員全体への共有を目的として開催されたものである。

(1) 沿線 DMO 協議会の体制について（沿線まると）

沿線 DMO 協議会は、奥多摩町、奥多摩観光協会、JR 東日本、おくたま地域振興財団、沿線まると株式会社の 5 社を中心メンバーとし、飲食・物販事業者等とはワーキンググループとして適宜連携する体制であることを説明。

(2) 2025 年度事業実績・成果報告について（沿線まると）

DMO 登録要件に基づく自己点検項目（5 項目）に沿って、以下のとおり報告が行われた。

- ・ KGI（旅行消費額）：目標 93.64 億円に対し実績 59.45 億円、達成率 63.5%。集計方法変更の影響が大きく、2025 年度実績を新たな基準として、今後の目標を再設定する方針。
- ・ KPI（一人当たり旅行消費額）：達成率 117%（実績 14,000 円）。

- ・ KPI（延べ宿泊者数）：目標 7.3 万人に対し実績 5.6 万人、達成率 76.7%。宿泊を伴う夜・朝のコンテンツ造成が今後の課題。
- ・ KPI（来訪者満足度）：目標 86%に対し実績 91%。
- ・ KPI（住民満足度）：実績 40%と低水準。住民との対話を通じた理解促進が急務。
- ・ 月別来訪者数の平準化率：梅雨期・閑散期の来訪者減少が引き続き課題。

主な取り組み実績として、以下が報告された。

- ・ 地域事業者と連携したツアーを年 7 回実施（ハイキング×Satologue ランチツアー、日帰りサウナプラン、ガ酒トロノミーツアー、お茶会等）。
- ・ 沿線まるごとパスポートの配布（クーポン利用実績 61 回、連携事業者 16 件）。
- ・ 二次交通強化：電動自転車（稼働率 28.7%）、電動トゥクトク（稼働率 36.8%、本年 7 月より自社運用へ移行）。
- ・ 宿泊施設運営：Satologue 宿泊棟（2 名定員×4 室）の開業（年間利用者約 840 名）、2 棟目（1 棟貸しの別邸）が本年 7 月にグランドオープン。
- ・ 宿泊客アンケート（満足・やや満足の合計がほぼ 100%）、接客英語研修（年 6 回）を実施。
- ・ JR 東日本と連携した首都圏でのプロモーション及び海外向け発信（英国イベント出展で SNS フォロワー約 200 名獲得等）、メディア掲出 84 件、アワード受賞 2 件。
- ・ 四社包括連携協定（奥多摩町・㈱さとゆめ・HIS・沿線まるごと）に基づき、奥多摩町観光産業振興計画の策定に関与。そのほか、杏林大学との連携（学生インターン受入等）、視察受入 184 名、奥多摩マルシェの定期開催（奇数月第 3 土曜日）等を実施。

(3) 2026 年度事業計画・実行計画について（沿線まるごと）

奥多摩町の観光の現状（都心近郊の立地、アウトドア日帰り客中心、季節による来訪者数の変動）と課題を踏まえ、「従来の日帰り通過型から、住民とともにつくる滞在循環型の観光地」への転換を目指す姿として説明。ターゲットを以下の 3 層に設定し、それぞれの方針を説明した。

- ・ 主要ターゲット：首都圏近隣のアウトドア・登山層（日帰りから宿泊への転換を促進）。
- ・ 滞在層：非日常の質を求める層（平日・閑散期の高単価需要創出を狙う）。
- ・ 育成ターゲット：欧米中心のアドベンチャートラベル・サステナブル志向のインバウンド層。

各ターゲットに対し、森林セラピーや宿泊を組み合わせた体験造成、閑散期向け高付加価値パッケージ（小澤酒造連携の酒蔵体験等）、インバウンド受け皿・多言語対応の整備等を 2026～2028 年度にかけて段階的に進める計画であることを説明。あわせて、観光分析ツールやアン

ケートによる定期的なデータ収集と PDCA サイクル、DMO 実施体制、受け入れ環境整備（ごみ対策の実証、地域食材の活用等）についても説明した。

(4) 質疑応答

観光協会：曜日・季節による来訪者数の平準化は奥多摩町にとって長年の課題であり、これまで様々な取り組みが行われてきたが、これといった成果は出ていない。具体的に前進できる取り組みがあれば進めてほしい。

沿線まると：閑散期にも営業を続けている事業者と連携しながら、新たな集客コンテンツを検討していきたい。

観光協会：冬季に限らず、週末のみ営業する店舗も多い。

沿線まると：これまでの宿泊キャンペーン以外に、冬季の取り組みとして行ってきたことがあれば伺いたい。

観光協会：町からの委託で宿泊キャンペーンを実施してきたが、イベントは単発に終わりがちで、継続的な成果にはつながっていない（氷を活用したイベントを計画したが、暖冬により実現しなかった例等）。

振興財団：日帰り森林セラピーでの食事提供（Satologue）は好評で、季節を変えて参加するリピーターも見られる。冬季メニューの提供に向けて協力したい。来年度以降は宿泊面での連携にも期待している。

沿線まると：インバウンド利用者の宿泊需要についても、今後振興財団と連携してご案内をお願いする可能性がある。

奥多摩町観光産業課：四社協定を機に、ツアー等の取り組みがより具体化してきている。新規コンテンツの開発とあわせ、既存の取り組みを見直し磨き上げることで、事業者の負担を抑えながら価値を高めていきたい。観光産業計画策定委員会では 10～11 月の第 3 回会議に向け、計画の中に DMO の取り組みも位置づけていきたい。

沿線まると：現在先行して策定している DMO 事業計画は、今後策定される町の観光産業振興計画をベースに、随時見直していく。

JR 東日本：JR としては、引き続き駅やグループ会社との連携による情報発信、青梅線の利用促進を行い、奥多摩エリアへの送客に取り組みつつ、沿線まるとホテル事業の支援も行っていく。国内富裕層・インバウンド層においては、高輪エリアでの発信が効果的と考えている。具体的には JW マリオットホテルとの連携や、自治体と連携した観光キャラバンの実施に向けて、現在関係箇所と調整している。

【決議事項】

協議の結果、出席者全員の下承のもと、2026 年度事業計画・実行計画（ターゲット別戦略、

重点施策、データ活用方針を含む）を沿線 DMO として推進していくことが確認された。

以上